

◆ 2020 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 かわごえ里山イニシアチブ

23A-17

代表者：代表理事 増田 純一

URL : <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

活動の背景としては、農薬は労働力を削減し、効率的なお米作りに劇的な効果をもたらしている反面、ネオニコチノイド系の農薬は、日本では残留農薬基準が年々大幅に緩和されています。このまま放置すれば、お米や野菜はネオニコ系の残留農薬だらけとなり、生態系は破壊され、里山や日本の美しい田園風景は消えてしまいます。こうした背景の中で、私たち自らが体を動かし、農を守り環境を守るといふ小さな農業をしながら、地域と共に田んぼを保全する活動が「生きもの育む田んぼプロジェクト（以下、田んぼPJ）」です。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

会員 75 名、田んぼ PJ 参加者 35 名で活動を行いました。

4 月 4 日、総出で行う堀さらい(約 55 名、里山 10 名)が米作りの始まりです。同日、種の温湯消毒(8 名)で、60℃ 7 分間のお湯に浸して種子の殺菌をしました。4 月 19 日、種まき(20 名)。4 月 25 日、マコモの田植え(8 名)。田植えイベントはコロナ禍で中止し、5 月 23 日から機械植えを始めました。6 月 27 日、生きもの観察会(35 名)とホテルの放流(10 名)。6 月 28 日、総会後にマコモ勉強会(12 名)。7 月 18 日、第 2 回堀さらい(35 名)。7 月、農福連携試行としての障がい者施設でのマコモ葉の収穫(15 名)。8 月 1 日、マコモ葉で牛馬づくり(15 名)。8 月 28 日、マコモ勉強会と案山子づくり(12 名)。9 月の稲刈りイベントはコロナ禍で中止しました。10 月 4 日、地元への感謝 Day(45 名)で、サイサン環境保全基金の方々に訪問していただきました。11 月 19・20 日、あと 9 年で千年の歴史を持つ川越八幡宮に奉納する川越大しめ縄飾りづくり(20 名)。12 月 6 日、同神社でマコモで正月飾りづくり(35 名)を開催しました。稲作文化の伝承として 1 月 10 日、ドンド焼きを行いました。



種まき



生きもの観察会



収穫祭&感謝 DAY

3. 活動の成果

地域に根ざした田んぼ PJ は認知度や信用度が増してきています。こうした活動が認められ、2018 年度の彩の国埼玉環境大賞の「大賞」受賞に続き、2020 年 12 月に、環境省主催第 8 回グッドライフアワード実行委員会特別賞<環境と福祉賞>部門を受賞しました。受賞タイトルは、活動を端的に表現した「環境豊かな都会型農村を目指し、地域と連携して環境保全型農法に取り組む田んぼ PJ」でした。2020 年度から地域の田園風景や環境保全を目的とした山田環境保全推進グループに加入することもでき、地域連携、大学連携、農福連携の連携の輪が加速しています。

4. 今後に残された課題

コロナ禍の中で小規模でも食料生産は止めることができません。その中で省力化をしながら農業生産をしていく方法を工夫しなければなりません。また、環境関連のセミナーや講演会も工夫をしつつ進めていく必要があります。活動経費に占める助成金の比重がまだ大きいので、6 次産業化で経済的自立の道を進めていく必要があります。